



倉科昌高個展
大町とヤマノカミサマ

2025年9月14日(日)～28日(日)

ギャラリー・いーずら

11:00～19:00 会期中無休・入場無料

主催：大町市教育委員会



倉科 昌高 個展

大町とヤマノカミサマ

期間：2025年9月14日(日)～28日(日)

場所：ギャラリー・いーずら(大町市大町3300-1 つくだビル2階)

時間：11:00～19:00 会期中無休・入場無料

「日本の屋根よ信濃なる…大山脈の峰々や」。「ああさわやかな安曇野の蓮華に爺に鹿島槍」。「西に東にそびえ立つ山は不断の雲をはき」。いずれも母校の校歌ですが、並べてみると見事に山ばかりですね。学校は何かといえば校歌斉唱ですから僕の少年時代…というよりどうやら現在でも大町の少年少女は山の歌ばかり歌って成長すると言っても過言ではないでしょう。実際大町は「にし山」と「ひがし山」に挟まれて、どこを向いても否応なしに山が視界に入る環境。小学生の僕は野球も不得意だし、もっぱら虫だ魚だキノコだと野山を駆け廻り、冬はスキーでやっぱり山ばかりだった気がします。それに加えて父から「山には神様がいるだよ。」と説かれてはそれを疑うことなく信じるようになります。そのおかげで小学生の間は山で立ち小便をする度に父の言いつけを守って「山～の神様どいとくれ」と唱えることを欠かしませんでした。そして気持ちよく放尿しながら、ふと辺りを見渡すと木々の奥の方に何か潜んでいたり、草むらから何か現れるような気がして焦ったものです。また実際に何かではなくて野生動物に遭遇することも度々ありました。野生動物は会おうと思っても簡単には会えませんが、思いもしないときに唐突に現れます。まだ暗い朝方、カブトムシの集まる街灯の下でひと足さきにやってきて獲物をさらい、ちらっとこちらを振り返ってから草むらに消えたタヌキ。山道でふと目を上げた先にスッと立ってこちらを見下ろすカモシカ。またある時は雪を被った森の一本道で、横断中の猿の群れに左右を挟まれていたこともあります。あの時薄暗い森の中から僕に向けて緑色にキラキラ光る猿たちの目に気づいた瞬間はまるで自分が丸裸で雪の中に立っているような気がしました。動物園で檻越しに眺めるのとは全く違って、自然の中で野生動物と遭遇するのは、全く無防備なまま、臨戦体制のトップアスリートと対峙するようなものです。そんな時、僕はいつも野生の圧倒的な逞しさと美しさに畏れと憧れの入り混じった感情で一瞬恍惚となって動けなくなってしまうのでした。そんなふうに出での遭遇と想像の体験のおかげで僕の中のヤマノカミサマと野生動物は『畏敬』の存在という点で繋がるようになったのです。今回は特に故郷の大町に焦点を絞ることで、ヤマノカミサマと自らの原風景に迫りたいと考えています。

倉科 昌高 (くらしな まさたか)

カスタムペインター、アーティスト 大町市出身

フリーランスのイラストレーターを経て、MTB レーサーのヘルメットペイントをきっかけに1993年よりカスタムペインターとして活動を始める。以後日用品から建築の分野まであらゆる立体物をベースにカスタムペイント作品を制作。ミュージシャンやファッションデザイナー、現代美術家など、異種クリエイターとのコラボレーションも多数ある。またアーティストとして個展やグループ展への参加も精力的に行う。幼少期から生き物と自然に興味を持ち、有機的なイメージを得意とする。